

東京大学
被災地支援
ネットワーク

つぶやき分析からガイドブックの作成へ

東京大学被災地支援ネットワーク
清水 亮

足湯ボランティアとは

- 足湯を行うボランティア活動
- 主に災害時に避難所や仮設住宅などで実施
- 東洋医学の考え方が基本
 - 足を湯に浸け、手を軽くさする
 - 心身を解放しリラックスしてもらう

東京大学
被災地支援
ネットワーク

足湯ボランティア

1995 阪神淡路大震災
2004 中越地震
2007 能登半島地震
2009 兵庫県佐用町台風被害
2011 宮崎県高原町新燃岳噴火被害
2011 東日本大震災
2014 広島土砂災害・丹波豪雨
2015 関東東北豪雨災害(常総市)

- 実施団体：
 - 被災地NGO協働センター、神戸大学、金沢大学、高野山足湯隊、ROADプロジェクト足湯ボランティア、福島大学、東北大学、東北学院大学、岩手大学・・・

東京大学
被災地支援
ネットワーク

ROADプロジェクト足湯ボランティア

- 震災がつなぐ全国ネットワーク(略称:震つな)
 - 阪神淡路大震災後の1997年に全国の災害救援団体が連携
- ROADプロジェクト
 - 日本財団が東日本大震災に際して立ち上げた支援事業
 - NPO・ボランティア団体への助成
 - 共同企画等
 - 足湯ボランティア……震つな×ROADプロジェクト
 - 大学生ボランティア隊……Gakuvo(日本財団大学生ボランティアセンター)
 - etc.

東京大学
被災地支援
ネットワーク

「つぶやき」とは

- 被災者が足湯の最中にふと漏らす言葉
 - ex.「仮設住宅に当たったけど、内緒にしてるんだ……」
(2011年4月26日 大船渡市 60代女性)
- ボランティアによる「つぶやき」の記録
 - つぶやきカードに1回終了ごとに記録
- ROADプロジェクト足湯ボランティアでデータ収集
 - 2011年3月～2013年5月までで、約16,000枚のカード

東京大学
被災地支援
ネットワーク

足湯とつぶやき

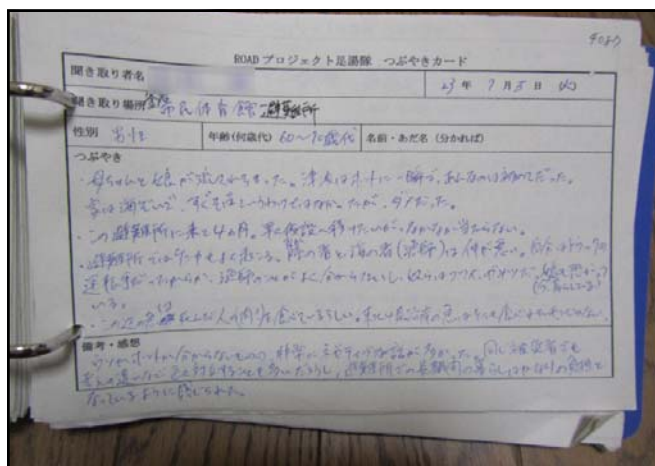








東京大学
被災地支援
ネットワーク



つばやき分析の経緯

ROADプロジェクト足湯ボランティア事務局
つばやきカード→入力→「週刊つばやき」
(参照 http://www.city.beppu.oita.jp/03gvose/syogai/aru_nai/bukai_kentou/pdf/05/muran03.pdf)

↑ 支援

東京大学被災地支援ネット
-2011年4月発足
-教職員中心の専門職ボランティア

東京大学被災地支援ネット
つばやき入力のお手伝い
+分析 (2011年6月頃～)

つばやきデータ

- 期間: 2011年3月29日～2013年5月15日
- 聞き取り者名/日付/聞き取り場所/性別/年齢/名前/つばやき/備考・感想
- 16636個のつばやきを量的・質的に分析
- ボランティアが記入(厳密には被災者の言葉そのものではない)
- 名前の欄はほぼ空欄なので、実質的に匿名データ

- 調査者の質問に回答しているデータではない
- 受動的データ

- サンプリングによって抽出された回答者ではない
- 代表性の欠如

社会調査のデータとは違う特異なデータ

当初の分析方針

何らかの政策提言につなげたい ... 依頼事項

- まずは入力
- 適当なカテゴリーを設定してひたすら分類
- 統計解析...全体分布、時系列、地域別
- 質的分析...特徴的なもの、気になるもの

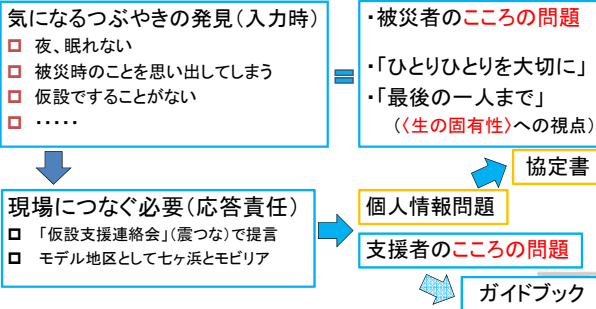
仮設住宅の居住性や移送サービスの必要性などが見えてくる???

つばやきの分類項目

つばやきを下記の25カテゴリーに事後分類

1 震災・原発・被災体験	14 仮設をめぐる生活環境
2 生死	15 まちづくり・復興計画
3 放射能	16 将来設計
4 医療・健康・介護・福祉	17 娯楽・趣味
5 家族・親族	18 することがない
6 近隣・友人	19 教育・子育て・学校
7 動物・ペット	20 土地柄(地域自慢)
8 仕事・生業	21 個人史・生きがい
9 金銭・生活費	22 世間話
10 土地・財産・家屋	23 足湯
11 買い物	24 ボランティア・支援
12 交通・移動	25 避難所をめぐる生活環境
13 衣食・生活物資	99 該当なし

作業過程における変化



13

実際の作業

作業1

- 全体傾向の把握(量的分析)
- 注目すべきつぶやきの発見(質的分析)

作業2(こころの問題への照準)

- 被災者のこころの問題 → 現場へいかに返すか
問題発見の機会としてのつぶやき
- 支援者のこころの問題 → 専門家につなぐ(抱え込まない)

専門家との協働の模索

ガイドブックの作成

14

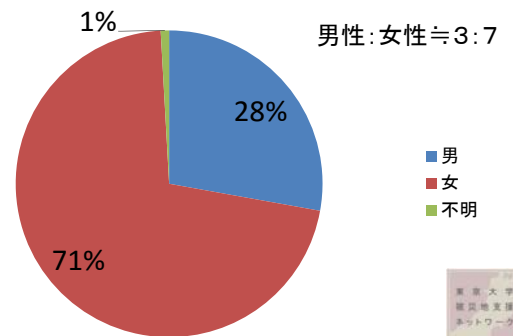
量的分析

目的: つぶやきの全体像・概要を明らかにすること

- ① 基本データ(性別、年齢、利用者数)
- ② つぶやきの内容の分析(全体)
- ③ 性別ごとの分析
- ④ 年齢層別の分析
- ⑤ 都県別の分析
- ⑥ 時系列によるつぶやきの変化の検討
- ⑦ 個別地域の分析

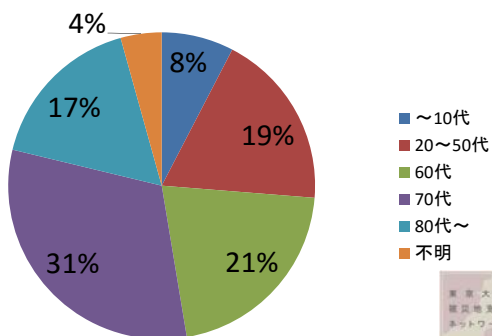
15

基本データ: 利用者の性別



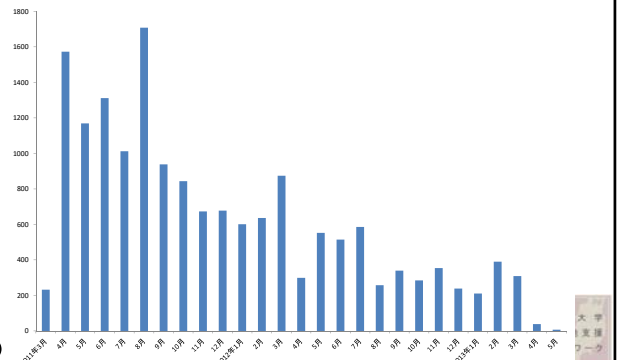
16

基本データ: 利用者の年齢層

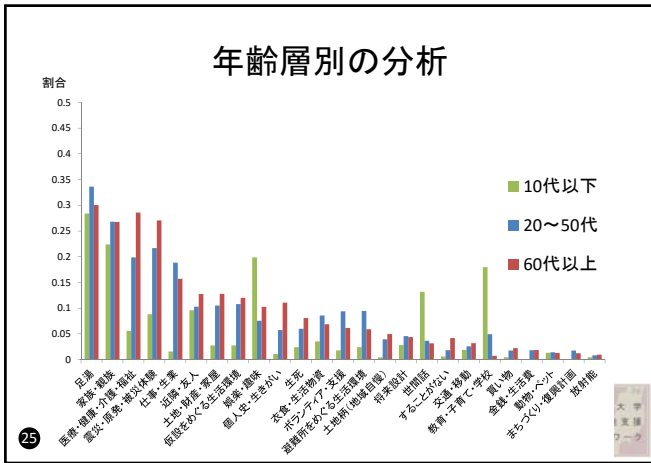


17

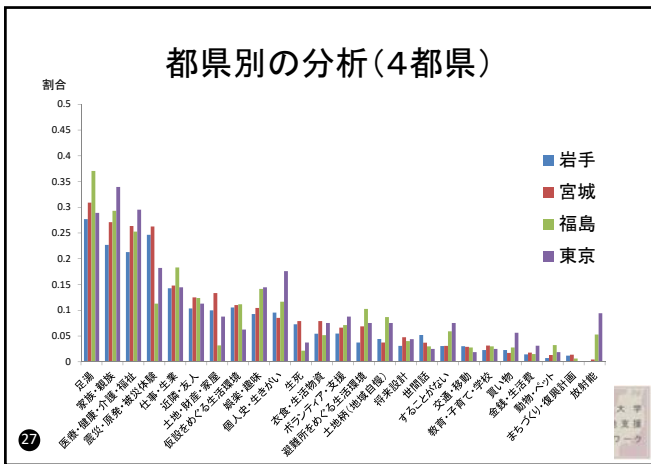
基本データ: 利用者数の推移



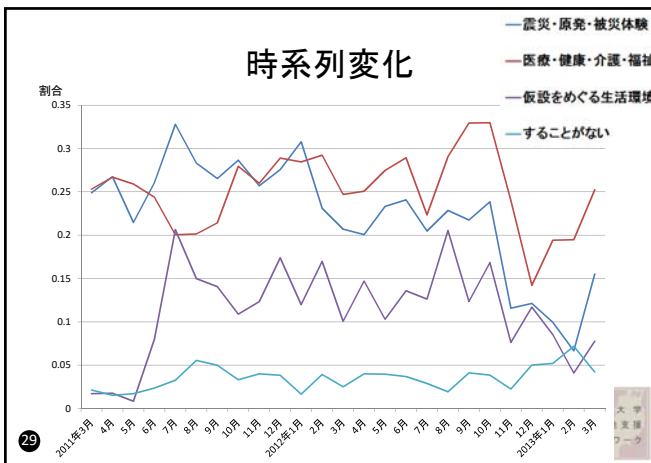
18



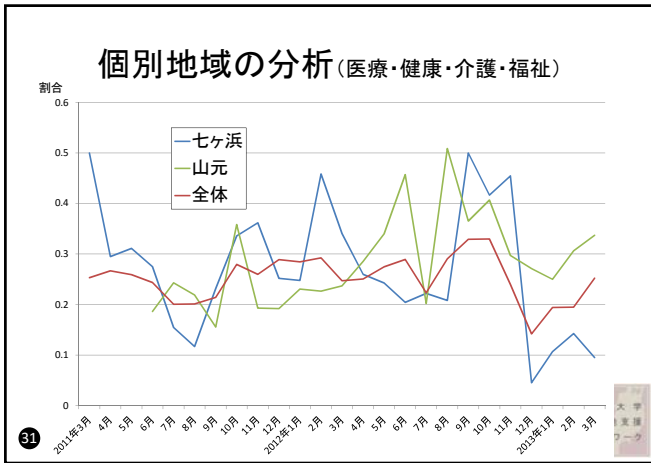
- ### 分析4: 年齢層ごとの傾向の違い
- 年齢層によってつづやきの傾向が大きく変わる
 - 高齢層**ほど多いつづやき
 - 「医療・健康・介護・福祉」、「震災・原発・被災体験」、「土地・財産・家屋」、「仮設をめぐる生活環境」、「個人史・生きがい」
 - 若年層**ほど多いつづやき
 - 「趣味・娯楽」、「教育・子育て・学校」
 - 特に**若年層**は他と異なる傾向が強い
 - 「震災・原発・被災体験」を語っていない子どもたち？
- 26



- ### 分析5: 都県ごとの傾向の違い
- 宮城と岩手は類似の傾向
 - 福島の傾向
 - 「震災・原発・被災体験」、「土地・財産・家屋」は少ない
 - 「放射能」、「医療・健康・介護・福祉」、「趣味・娯楽」、「することがない」、「土地柄(地域自慢)」、「個人史・生きがい」は多い
 - 東京の傾向
 - 福島と似ているが、さらに極端な傾向
 - 全体的につづやきの数が多い
 - 加えて、「家族・親族」、「医療・健康・介護・福祉」、「買い物」、「放射能」が多い
- 28



- ### 分析6: 時系列によるつづやきの変化
- 「震災・原発・被災体験」は漸減傾向だが、2年目の3月に上昇。
 - 「医療・健康・介護・福祉」は増えたり減ったり。
 - 「仮設をめぐる生活環境」は漸減か。
 - 「することがない」は数は少ないが、横ばいが継続。
- 変化をどのように解釈するか？
- このデータからだけでは困難
 - 詳細分析の必要性
 - 別のデータとの
- 30



分析7: 個別地域の分析

- 全体傾向との差や地域間比較などは可能
- 現場を知らないつづき分析チームでは、データの特徴を指摘することはできても、「解釈」は困難

⇒ 地元で活動しているボランティアとともに、傾向を読み取る作業が必要(現場との<共同行為>)

32

実際の作業 (再掲)

作業1

- 全体傾向の把握(量的分析)
- 注目すべきつづき発見(質的分析)

作業2(こころの問題への照準)

- 被災者のこころの問題 → 現場へいかに返すか
問題発見の機会としてのつづき
- 支援者のこころの問題 → 専門家につなぐ(抱え込まない)

→ 専門家との協働の模索

→ ガイドブックの作成

33

ガイドブック作成のための作業

- 作業1(「こころの健康の分類カテゴリー」の作成)
 - こころの問題の専門家と連携(臨床心理士・保健師・看護師等)
 - つづきからこころの問題に関連する表現の抽出
 - KJ法によるカテゴリーの作成(10の大分類と55の小分類)
- 作業2(データセットの作成)
 - カテゴリーのコード化
 - 分類コードの転記
- 作業3
 - 分類ごとにキーワードと例文の抽出
- 作業4
 - 専門家によるチェックと現場でのチェック

34

「こころの健康の分類カテゴリー」の作成

靴の消耗が早いんだよね、3月11日から7足目だよ。家族の分もだし、自衛隊に行っても朝5時から並んで一足しかもらえなくて全然足りないんだ。娘が仮設に入って、ダンナは今月から北海道。同じ部屋の人もみんな出てしまってひとりになってしまうんだ。家族ばらばら。本当にどうしたら良いの？石巻があったら水道で頭が洗えるから欲しい。(2011/05/19 石巻 30代 女性)

話をするのはあなたたちが来た時だけなんだ。後はなんにも話してはねえ。本当に話す時なんかねえ。本当にさみしんだ。(肩震わせて涙ぐんでしまった)(しばらく手を腕を握らせてもらった)(2012/05/27 陸前高田 80代 女性)

- コミュニティとのつながり
- 家族とのつながり
- 孤独感?

- 孤独

→ つながりの欠如

35

「こころの健康の分類カテゴリー」の作成

<p>＜表2＞「つづき」こころの健康の分類</p> <p>A ストレス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族間のストレス 2. 仮設(避難所)の環境がストレス 3. その他人間関係のストレス 4. 気を遣うよりとりかへい(非交流的) 5. イライラ 	<p>B 健康問題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 不活発(することがない→活動低下) 2. 不眠 3. 治療・病気 4. 身体の痛み 5. 食生活不規則・体調悪化 6. 精神不調 7. 疲れ 8. 飲酒 10. その他体調不良 	<p>C 居場所不安</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 居場所の不安 2. 住まいの不安 3. 仕事上の不安(4種類上の不安) 	<p>D こころの悩み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自責感 2. もつれつくんだ 3. すまない・申し訳ない 4. 死んだらうらやまかった 5. やる気減退 6. 無力感 7. 誰かを傷むことができない(罪意識) 8. 喪失 9. 1. 家族・大切な人 2. 大切な物 9. 1. 仕事・その他 10. 諦め 	<p>E やりきれない(無理解・不公平)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理解されない(苦しみ) 2. 不公平感 3. 思い・苦しみ 4. 人への不信 5. 悔しさ 	<p>F 雑音</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 雑音・騒音 2. 雑音に敏感 3. フラッシュバック 4. 記憶(過去)思い出したくない 	<p>G つながりの欠如</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 孤独 2. 寂寥 3. 喪失・コミュニティ 	<p>H 楽しいつながり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族 2. 人間関係 2. 1. 他居 2. 2. ボランティア 	<p>I 希望へのあしかり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 活動・趣味・楽しみを見つけている 2. 感謝 2. 1. 現状への感謝 2. 2. 人への感謝 3. 自分も役に立ちたい 4. 何かをして役に輪らわっている 5. 感謝したい事(生活・家族関係・家など) 6. 希望の芽を見つけた 7. 勇気 8. 立ち直りの一歩 	<p>J 離隔らなくて</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1. 思いやり(ボランティア・編者) 2. 2. 思いやり(ボランティア・編者) 2. 2. 思いやり(ボランティア・編者)
---	---	---	--	---	--	---	---	---	---

36

キーワードと例文の抽出(例:ストレス)

気持ちいい。おばあちゃんと温泉来たみた
いだあ。**姉ちゃんといつもけんかしてる**。
あそこで髪切りに並んでるのが姉ちゃんだ
よ。「かた」もこってるから、マッサージもして
もらいてえなあ!
(2011/05/05 石巻 10代未満 男性)

よく兄弟喧嘩をする。この間、お兄ちゃんを
蹴っ飛ばしたら吹っ飛んでガラスが割れた。
イラスト・工作部に入っている。走ること、鉄
棒、サッカー、プラモデル作りが好き。この
間、肩のマッサージをやらしてもらったけど気
持ちは良かった。
(2011/09/24 石巻 10代 男性)

言葉:けんか

例文:〇〇とけんかしてる

子どものストレスの可能性
→ 要観察

37

キーワードと例文の抽出(例:不活発)

20年働いた会社がつぶれた。最後の仕事
が津波で壊されたし仕事場のそうだった。
全部できなくて、他のボランティアさんが片
つけてくれた。**毎日、何をしてもいいか、わか
らない**。
(2011/07/18 陸前高田 60代 女性)

昔は農家やってたんだ。…中略…今は放
射能のやつで作ってないけど昔は色々作っ
てたよ。**毎日暇だよ**。…中略…本当だよ。
何もすることがないんだもん。仕事もなくて、
作られたもの食べてただけだからね。…
(2011/08/28 郡山 80代 女性)

言葉:暇 何をしてもいいかわからない 外に出なくなった

例文:寝るしかない することがない 動かなくなった

生活不活発病の可能性
→ 要観察

38

ガイドブックのイメージ(例:家族間のストレス)

キーワード

落ち着かない
あたってしま
うけんか
しゃべらない
子どもの心配
ストレス
介護
トラブル

例文

(家族のことで)落ち着かない
(夫や息子に)あたってしま
(姉ちゃんと)けんかしている
家で誰もしゃべってくれない
おばあちゃんの介護が大変
娘のところをいたけど大変
だった

対処法

ボランティアコー
ディネータに報告
(要観察)

専門家に相談

特に対処しない

39

事例1) 60代女性

もともと元気な方だったが、震災後2年目になってフラッシュ・バックが起るよう
になり、集会所で急に涙を浮かべてしまう様子も。眠れないという声も聞かれた。
「仮設工房」という会に参加していたが、途中からこちらにも出なくなってしまう。

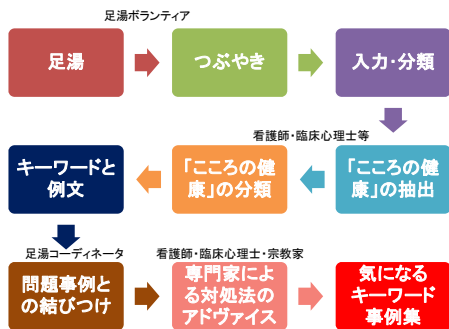
宮城県七ヶ浜町の事例(つぶやき)聞き取り者:清水玲奈(レスキューストックヤード)

F 緊急 フラッシュ・バック + B 不眠 + D 不眠 不眠 + D 不眠 不眠
F 緊急 フラッシュ・バック + B 不眠 + D 不眠 不眠 + D 不眠 不眠

- ① 緊急性は高いか? 緊急性は高い。
専門家につなぐべきか? 専門家につなぐべき。臨床心理系もしくは精神専門病院へ。
- ② その判断理由 不眠治療だけでは解決にならないため、精神専門病院で不眠治療を行うことが
大切。症状が続いている場合もPTSDの可能性が高いため。
- ③ ボランティアが
取るべき対応 お話いただける範囲でフラッシュ・バックについて話してもらったり、家庭の中
の関係性やコミュニティ内でのサポートをできるように工夫。ただし、PTSDの
疑いが強い場合はすぐに専門家につなぐ。

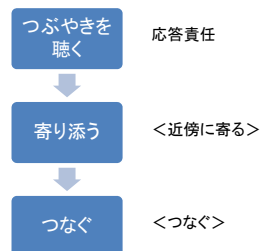
40

足湯ガイドブックができるまで



41

おわりに



42